平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ３２ ※記入不要	提案機関名	横浜川崎地域農業改良普及センター

要望問題　枝折り物はなももの促成技術の改良

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

背景
　桃の節句向けはなももを室など加温施設において、切った枝を促成し出荷しているが、出荷途中の環境悪化により蕾が紫色になり開花せずに落蕾するものが年や時期によってあり、出荷出来ずに廃棄する時があり経営の妨げになっている。枝が細かったり、急に気温が上がったりすると発生する時が多く、太めの枝を選んだり温度管理に気をつかってはいるが発生する場合もあり、本症状の発生原因の解明と対策方法について究明が求められている。

内容
　枝折り物はなももにおける蕾の不開花症状の原因究明
　枝折り物はなももにおける蕾の不開花症状に対応した促成技術の開発

対象地域及び規模
　川崎市および横浜市　　約 40 戸

解決希望年限	①１年以内　[②２～３年以内]　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	[①研究所対応]　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	[①農業総合研究所]（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：生産技術部

対応区分	①実施 ②実施中 [③継続検討] ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等
　枝物ハナモモの不開花、蕾の紫化につきましては前処理剤の利用により軽減されます。
水１リットルに対し硫酸アルミニウム 0.8g、クエン酸 0.1g、ショ糖 10g を溶かした溶液を促成前の水あげから促成期間中の促成室内において使用します。
現状においてはこの方法を参考にして下さい。
「切り花用品質保持剤による枝物の日持ち向上効果」あたらしい農業技術　191(1990)

　さらなる原因究明につきましては、発生状況等の観察をさらに進め、再現性を確認していただきながら、今後検討を続けたいと思います。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考